



# 2008年3月期決算概要 ご説明資料

2008年5月1日

株式会社ベリサーブ

# 財務ハイライト

(単位:百万円)	前々期 (2006年3月)	前期 (2007年3月)	当期 (2008年3月)	前期比 増 減	前期比 増減率
売 上 高	4,793	6,981	8,822	1,840	26.4%
売 上 原 価	3,266	4,741	6,013	1,271	26.8%
売 上 総 利 益	1,527	2,239	2,808	569	25.4%
利 益 率	31.9%	32.1%	31.8%	△ 0.3 pt	
販売費及び一般管理費	816	1,085	1,404	318	29.3%
販管費比率	17.1%	15.6%	15.9%	0.3pt	
営 業 利 益	710	1,153	1,404	250	21.7%
利 益 率	14.8%	16.5%	15.9%	△ 0.6pt	
営 業 外 収 益	3	4	24	19	-
営 業 外 費 用	0	0	44	44	-
経 常 利 益	713	1,157	1,383	226	19.5%
利 益 率	14.9%	16.6%	15.7%	△ 0.9pt	
当 期 純 利 益	414	657	788	130	19.8%
利 益 率	8.7%	9.4%	8.9%	△ 0.5pt	

# 当期決算のポイント

## ■ 売上高 8,822百万円 (前期比 26.4% 増)

- 開発支援検証サービスにおけるサービス対象製品の主力  
(ITS関連分野/デジタル家電/携帯電話)において堅調に拡大。
- 検証ビジネスの産業化を目指し、12月21日 東証一部への市場変更。

## ■ 営業利益 1,404百万円(前期比 21.7% 増)

- 検証技術者の積極的に採用 (社員数 50名増の 230 名)
- 本社スタッフ部門の充実

## ■ 経常利益 1,383百万円(前期比 19.5% 増)

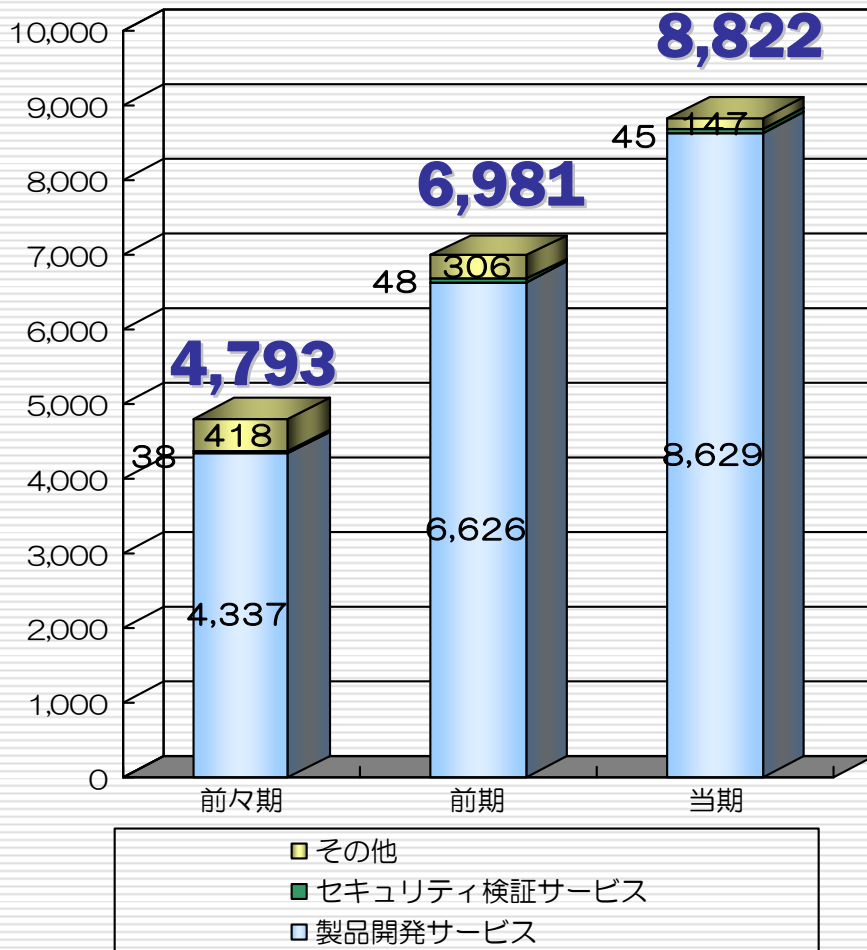
- 過去最高益を更新。
- 営業外費用 44百万円 (主として、市場変更関係費用)

## ■ 当期純利益 788百万円 (前期比 19.8% 増)

# 事業部門別売上高(期別比較)

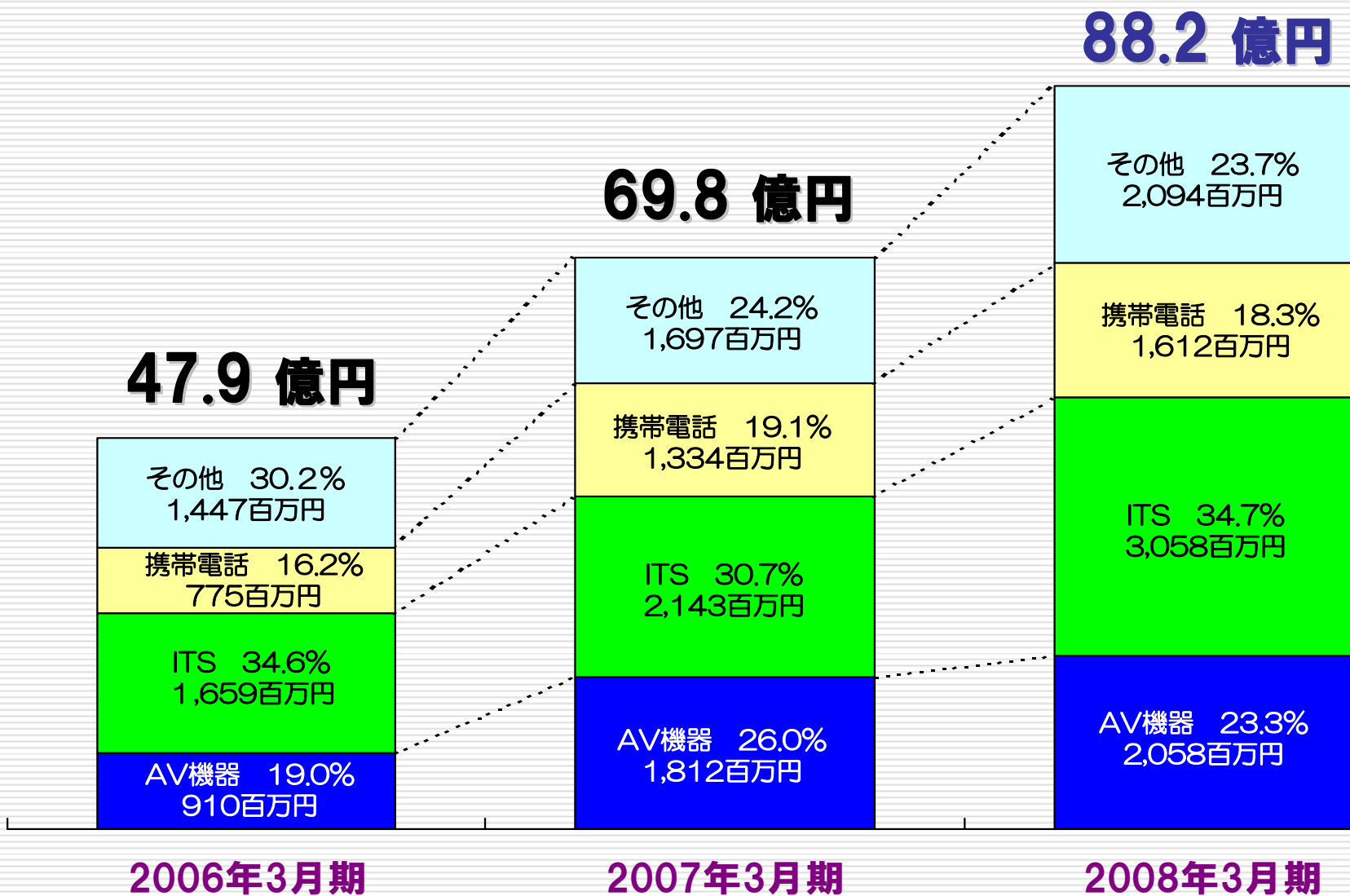
単位：百万円

単位：百万円



部 門	前々期 (2006年3月)	前期 (2007年3月)	当期 (2008年3月)	%	前年同期比
開発支援検証サービス	4,111	6,499	8,463	95.9%	30.2%
認定支援サービス	191	96	128	1.5%	32.7%
検証情報サービス	34	30	38	0.4%	26.3%
製品検証サービス	4,337	6,626	8,629	97.8%	30.2%
セキュリティ検証サービス	38	48	45	0.5%	▲5.7%
その他サービス	418	306	147	1.7%	▲52.1%
計	4,793	6,981	8,822	100%	26.4%

# サービス対象製品別売上(期別比較)



# 貸借対照表(対前期比)

(単位：百万円)

	前期 (2007年3月期)	当期 (2008年3月)	増減
<b>(資産)</b>			
流動資産	3,573	5,005	1,432
現金及び預金	2,356	2,873	517
売掛金	1,038	1,158	120
有価証券	-	800	800
その他流動資産	178	174	▲ 4
固定資産	344	396	51
有形固定資産	106	122	15
無形固定資産	64	65	1
投資その他	174	209	34
<b>資産合計</b>	<b>3,918</b>	<b>5,402</b>	<b>1,484</b>
<b>(負債)</b>			
流動負債	1,131	1,070	▲ 60
固定負債	3	3	-
<b>負債合計</b>	<b>1,134</b>	<b>1,073</b>	<b>▲ 60</b>
<b>(純資産)</b>			
資本金	370	779	408
資本剰余金	354	763	408
利益剰余金	2,058	2,786	728
<b>純資産合計</b>	<b>2,783</b>	<b>4,328</b>	<b>1,545</b>
<b>負債・純資産合計</b>	<b>3,918</b>	<b>5,402</b>	<b>1,484</b>

<前期末との比較>

**資産 : 14.8 億円増加**

- 現金及び預金の増加 : 5.1 億円
- 売掛金の増加 : 1.2 億円
- 有価証券の増加 : 8.0 億円  
(内容は譲渡性預金で、実質は預金)

**負債 : 0.6 億円減少**

- 流動負債の減少 : 0.6 億円  
主に 未払法人税等 : 0.4 億円

**純資産 : 15.4 億円増加**

- 資本金/資本剰余金 8.1 億円増加
- 利益剰余金 7.2 億円増加

# 損益計算書(前期比)

(単位：百万円)

	前期 2007年3月	当期 2008年3月	増 減	増減率
売上高	6,981	8,822	1,840	26.4%
売上原価	4,741	6,013	1,271	26.8%
<b>売上総利益</b>	<b>2,239</b>	<b>2,808</b>	<b>569</b>	<b>25.4%</b>
利益率	32.1%	31.8%	▲0.3pt	
販売費及び一般管理費	1,085	1,404	318	29.3%
販管費比率	15.6%	15.9%	0.3pt	
<b>営業利益</b>	<b>1,153</b>	<b>1,404</b>	<b>250</b>	<b>21.7%</b>
利益率	16.5%	15.9%	▲0.6pt	
営業外収益	4	24	19	-
営業外費用	0	44	44	-
<b>経常利益</b>	<b>1,157</b>	<b>1,383</b>	<b>226</b>	<b>19.5%</b>
利益率	16.6%	15.7%	▲0.9pt	
税引前当期純利益	1,157	1,383	226	19.5%
法人税等、調整額	499	595	96	-
<b>当期純利益</b>	<b>657</b>	<b>788</b>	<b>130</b>	<b>19.8%</b>
利益率	9.4%	8.9%	▲0.5pt	

■売上高 8,822 百万円

売上総利益率 31.8 %  
(前期比 ▲0.3 pt)

■販管費および一般管理費

販管費 1,404 百万円  
(前年同期比 318百万円増加)  
販管費比率 15.9 %  
(前期比 0.3 pt増)

主に、

- ・技術者の採用及び育成に伴う費用
- ・増加分の人件費の増加。
- ・本社スタッフ部門の充実

■営業外収益 24 百万円

水道光熱費戻入額 10 百万円  
資金運用利息 12 百万円

■営業外費用 44 百万円

主に 市場変更関連の費用。

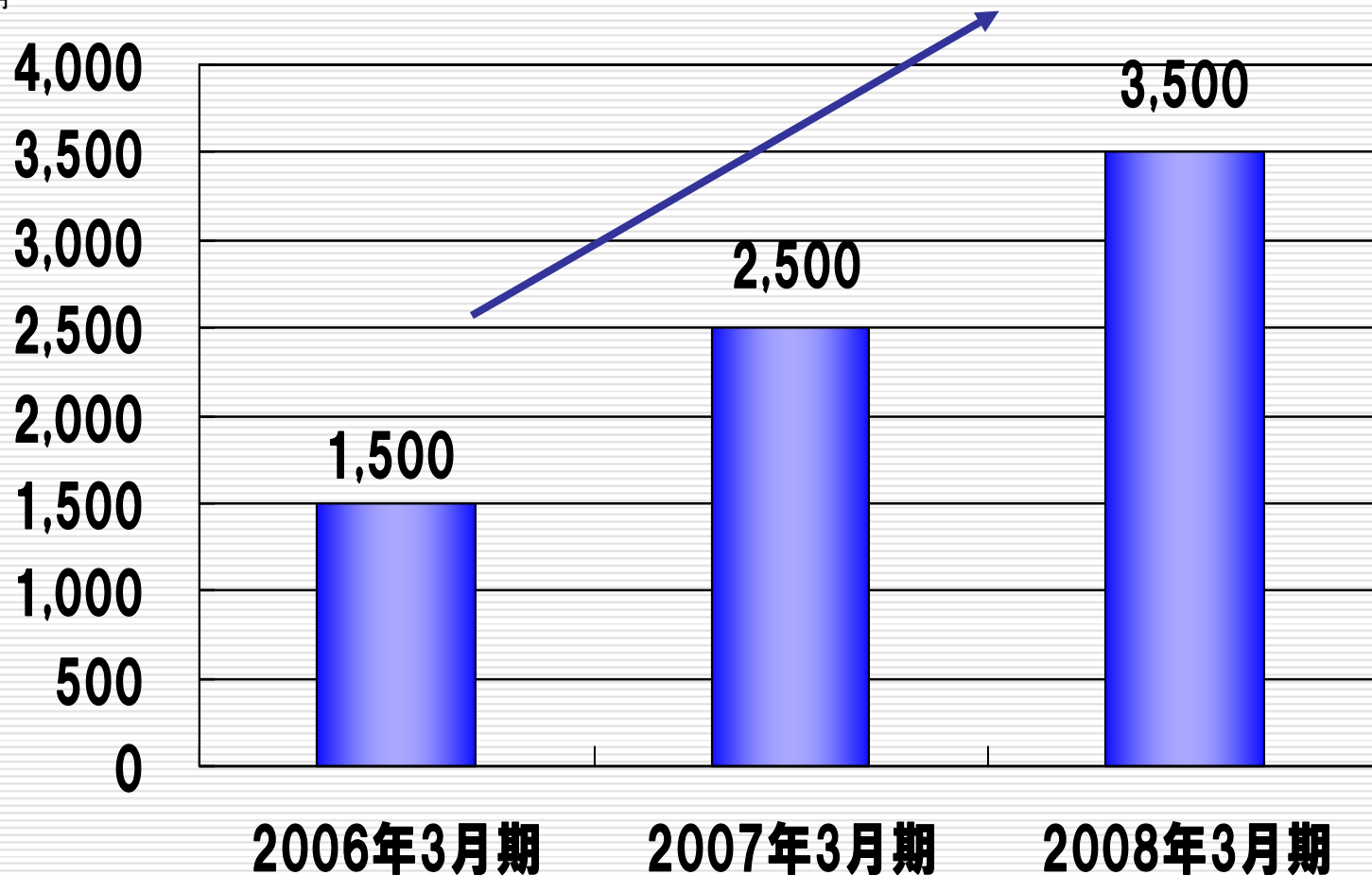
(単位：百万円)

	区 分	当 期	主な要因
I	営業活動によるキャッシュ・フロー	676	税引前当期純利益 1,383百万円 売上債権 △ 120百万円 法人税等の支払額 △ 644百万円
II	投資活動によるキャッシュ・フロー	△113	有形・無形固定資産の取得 △ 87百万円
III	財務活動によるキャッシュ・フロー	753	配当金の支払額 △ 60百万円 新株発行 813百万円
IV	現金及び現金同等物の増減額	1,317	
V	現金及び現金同等物の期首残高	2,356	
VI	現金及び現金同等物の期末残高	3,673	



## 1株あたり配当金

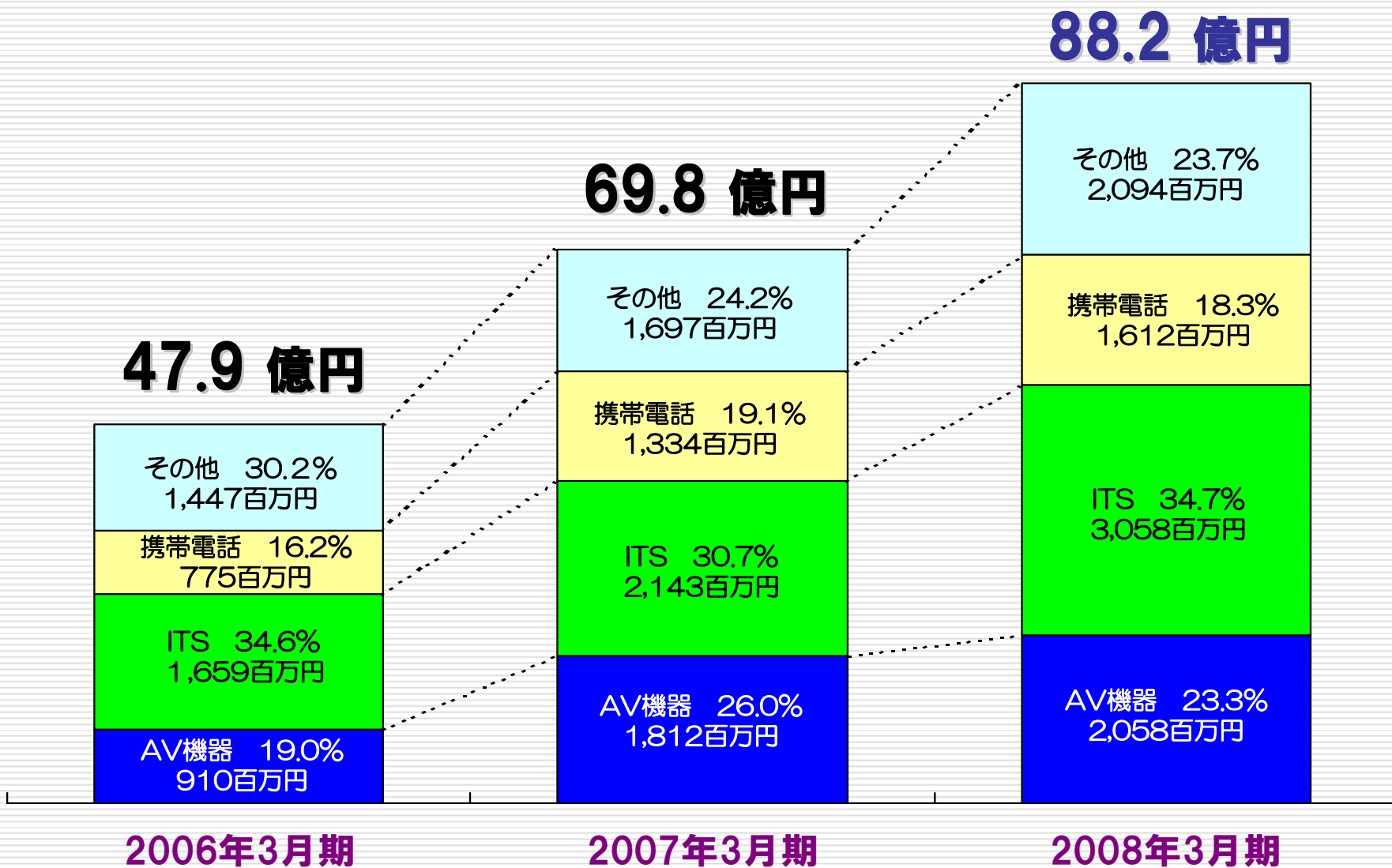
単位：円





## 経営環境と今後の見通し

# サービス対象製品別売上推移



# 経営環境：主要分野の動向

**ITS分野：** 自動車販売：海外でのマーケット拡大

**国内：** カーナビが純正装備、ETCの普及率も拡大  
より高機能（他の機能<ECU>と融合）

**海外：** 現状：PND <Personal Navigation Device> が主流（GPS機能中心）  
欧州・北米 普及期へ 中国：これから

**デジタル家電：** テレビの世代交代： アナログ → デジタル へ

より薄く、より高画質に → フルHD (Full High Definition) 画質補正

**携帯電話：** 第三世代携帯電話への移行過程

• 2006年 MNP  
(Mobile Number Portability)

• MVNOの新規参入  
(Mobile Virtual Network Operator)  
• 販売奨励金の見直し

• 固定/移動/データ通信網の融合  
→ NGN (Next Generation Network)  
• SIMロックフリー  
(Subscriber Identity Module card)

全体の流れとしては、製品のデジタル化の方向であるが、  
販売先地域の景況感の影響が大きい。

- ✓ **業績：増収増益で過去最高益を更新。**
- ✓ **主力3分野は堅調に推移。**
- ✓ **東証マザーズから一部への市場変更を申請し、12月21日に市場変更。**

- ✓ **下期：世界経済の減速感、米国におけるサブプライム問題、  
原油・原材料の高騰**
  - **景気後退局面（企業、個人の消費動向に影響）**
    - メーカー：新製品開発サイクルの見直し**
      - 開発体制／枠組みの見直し、企業合併**

# 経営環境：組み込みソフトウェア産業の現状

## ① 組み込みソフトウェア産業の規模

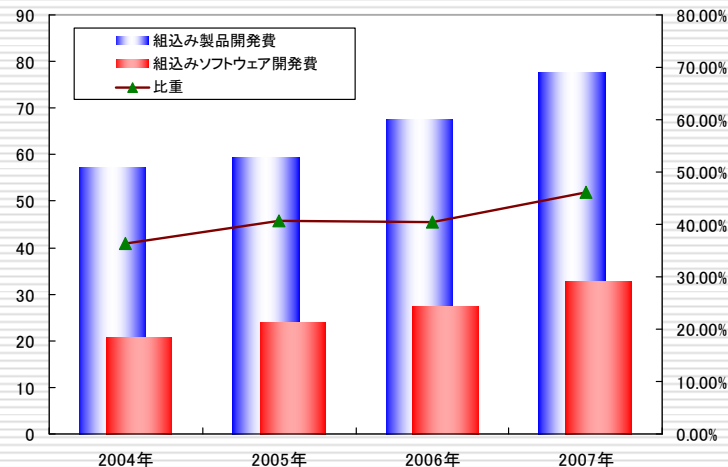
製品に内蔵されるソフトウェア（組み込みソフトウェア）の産業規模は年々拡大。

**2007年度調査 約3兆2,700億円**

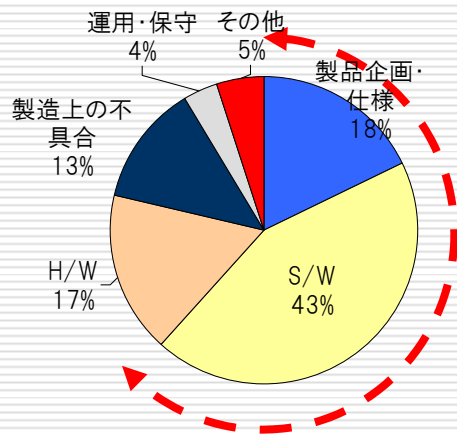
(前年比19.8%)

(2007年6月27日 経済産業省 リリース)

(組み込みソフトウェア産業実態調査 2007年版より)



## ② 製品出荷後の不具合の原因



**約6割**

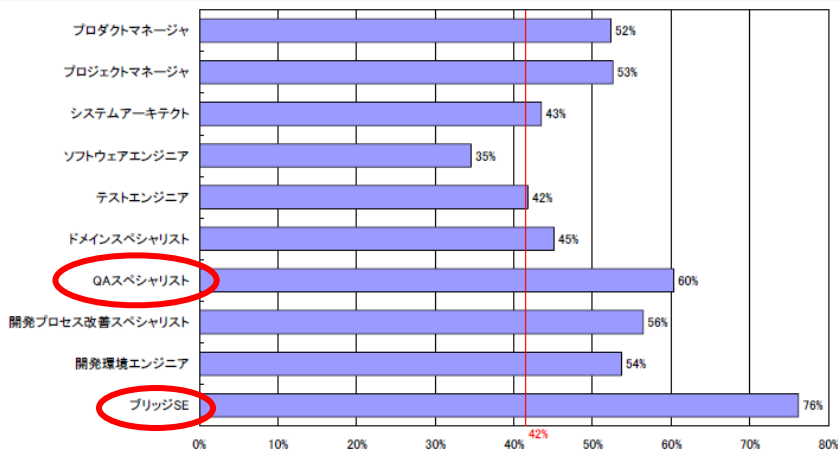
設計上の不具合等が 6割近くを占めており、従来の工業製品の不具合原因であった製造上の不具合、運用・保守の不具合などは様相が異なる。

**検証市場は拡大傾向**

# 経営環境：組込みソフトウェア産業の現状

(組込みソフトウェア産業実態調査 2007年版より)

## ●職種別不足率



組込み分野での人材は不足しているが、

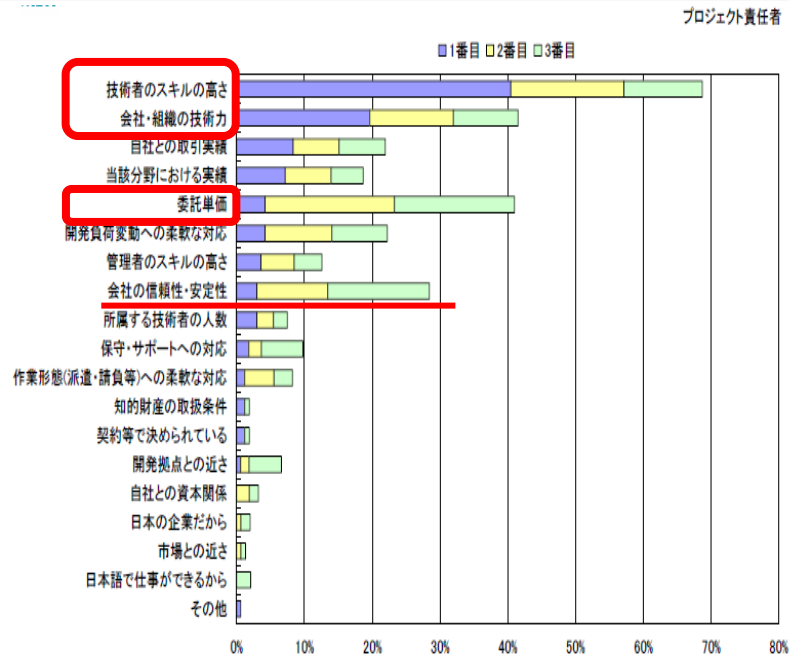
特に、**・ブリッジSE**：不足率 **76%**

**・QAスペシャリスト**：不足率 **60%**

相対的に、

高いスキルを持つ組込みソフト技術者に人材需要は集中。

## ●外部委託先の選定基準（国内大手企業）



検証技術者へのニーズは、  
SEに比べ、ニーズは高い。

専門性

価格

安定性

# 検証産業のリーディングカンパニーへ

- ネットワーク化によりソフトが膨大に
  - 互換性の問題は、1社だけでは解決できない。
- 日本における「ものづくり」
  - 高品質でリーズナブルな製品で世界を席捲。
- 他の分野から検証ビジネスへの参入してきている。
  - 品質管理を行う技術者には、専門性が要求されてきている。



当社のようにテスト・品質管理を掲げる企業が次々と出現するのではないか？

**検証産業におけるリーディングカンパニーを目指す。**



- ① お客様が真似のできない高い品質と、
- ② お客様が真似のできない高い生産性で、
- ③ 標準化されたサービス（商品）を
- ④ 安定した経営基盤で
- ⑤ 提供する企業群。

# 検証事業の産業化に向け

2007年12月  
東証一部へ指定替え

知名度向上

コンソーシアム



2005.10  
IT検証産業協会設立

検証ビジネスの  
産業化



IT検証技術者認定試験



技術者の  
地位向上

サービスの  
多様化

当社としては、検証事業のリーディングカンパニーとして、更なる成長を目指すための基盤整備。

1.フルライン検証サービスの充実（不具合モード拡充）

2.グローバル対応

3.人材への先行投資（採用、教育）

4.内部管理体制の強化（コンプラ、内部統制システム）

持続的な成長のための基盤整備は不可欠。

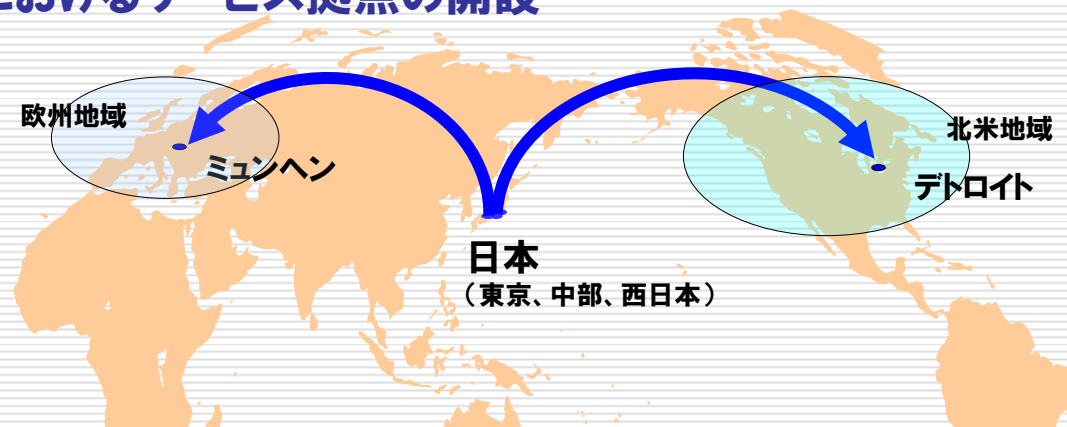
# 検証サービスの強化

## 1. フルライン検証サービスの充実（不具合モード拡充）

- アプリケーションの検証ビジネスの強化
  - WEB関連などのエンタープライズ系
- フルライン検証サービスの推進
  - 不具合モードの実践的な展開

## 2. グローバル対応

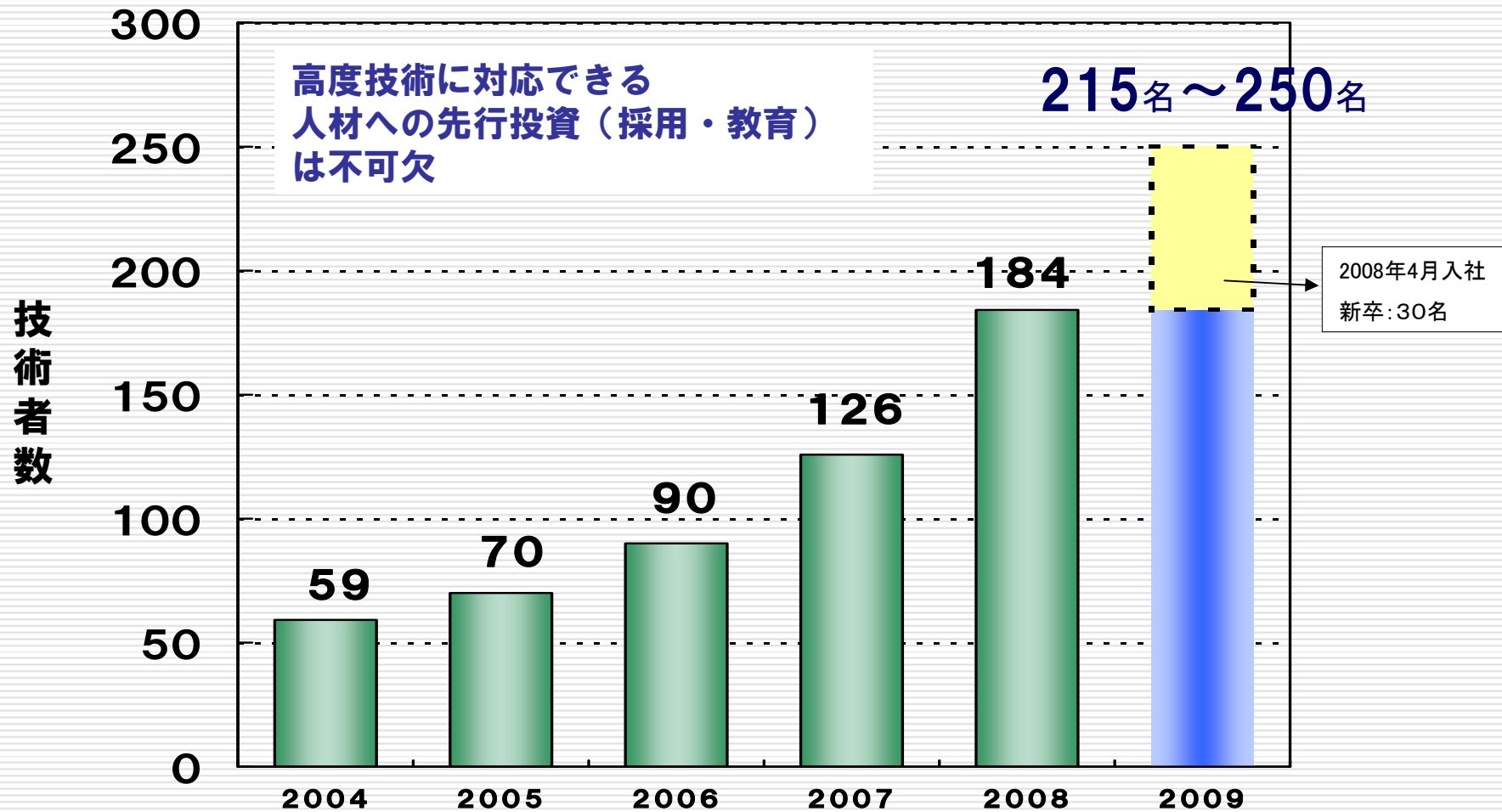
- 海外におけるサービス拠点の開設



日本メーカーが海外で販売する製品の検証業務

# システム検証技術者数推移

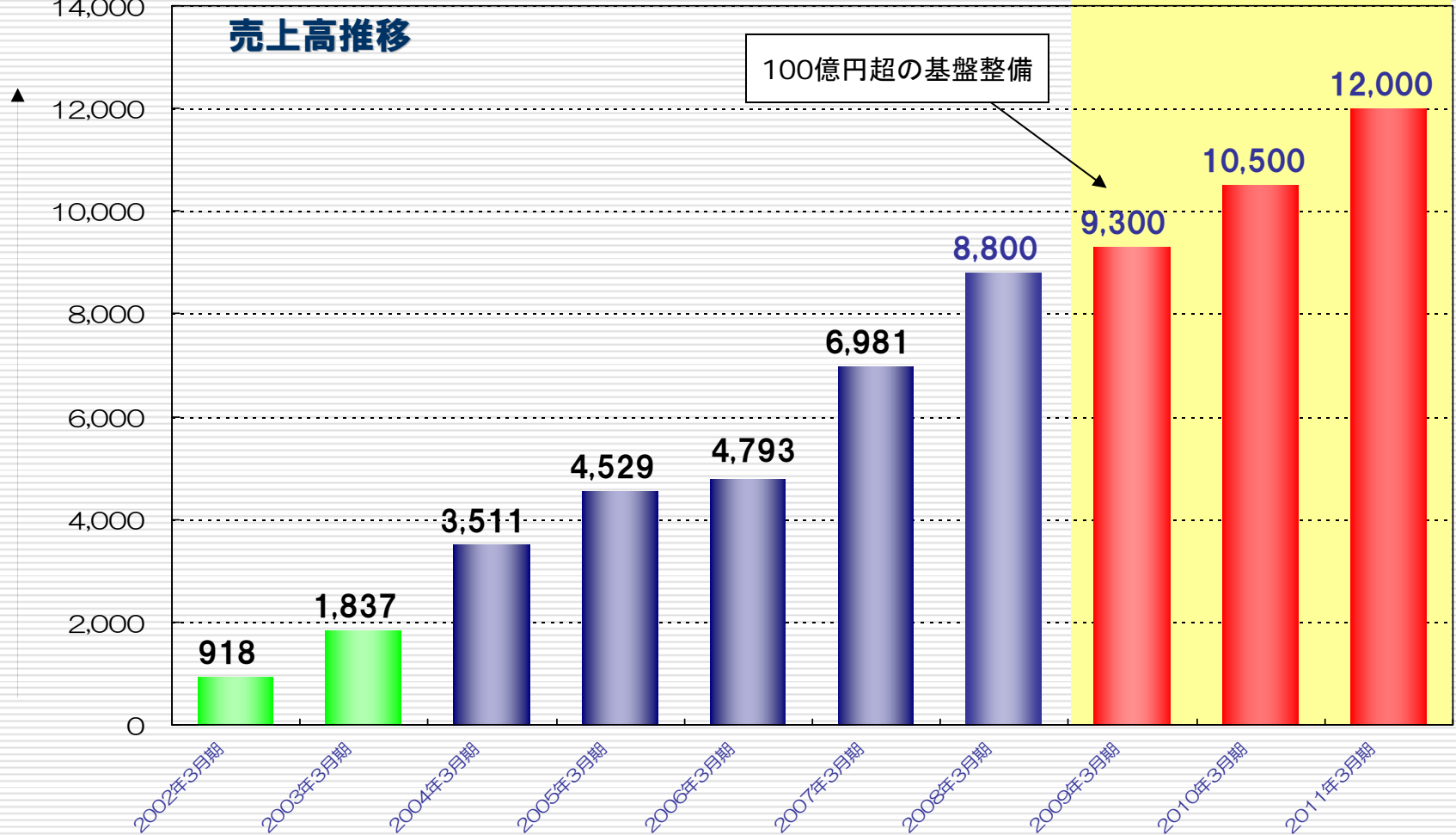
## 3. 人材への先行投資（採用、教育）



# 中期計画(売上高推移)

## ローリング方式による中期計画の見直しを実施

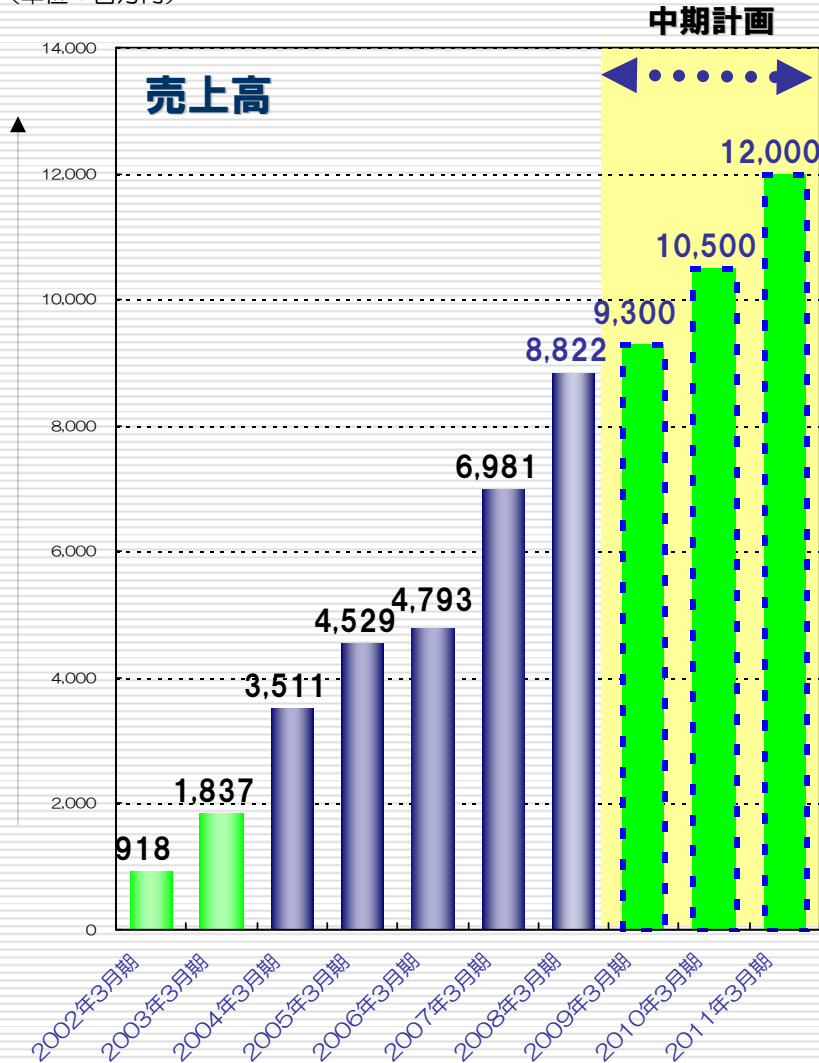
(単位：百万円)  
14,000



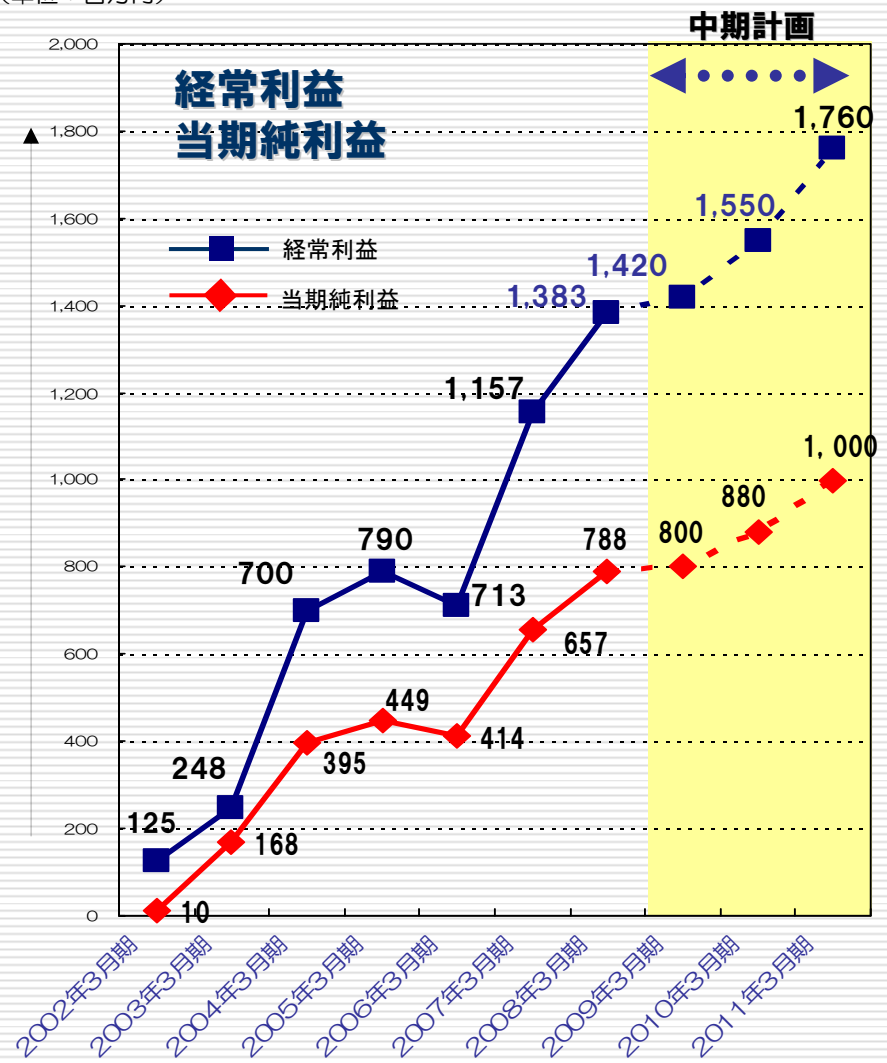
注) 2002年3月期は8ヵ月決算となっております。

# 中期計画 計数目標

(単位：百万円)



(単位：百万円)



注) 2002年3月期は8カ月決算となっております。

# 通期の見通し

	2009年3月期 見通し	
	2009年3月	2008年3月 (実績)
売上高	9,300百万円 ( 5.4 % )	8,822百万円
営業利益	1,420百万円 ( 1.1 % )	1,404百万円
経常利益	1,420百万円 ( 2.6 % )	1,389百万円
当期純利益	800百万円 ( 1.5 % )	788百万円

( )内前期比

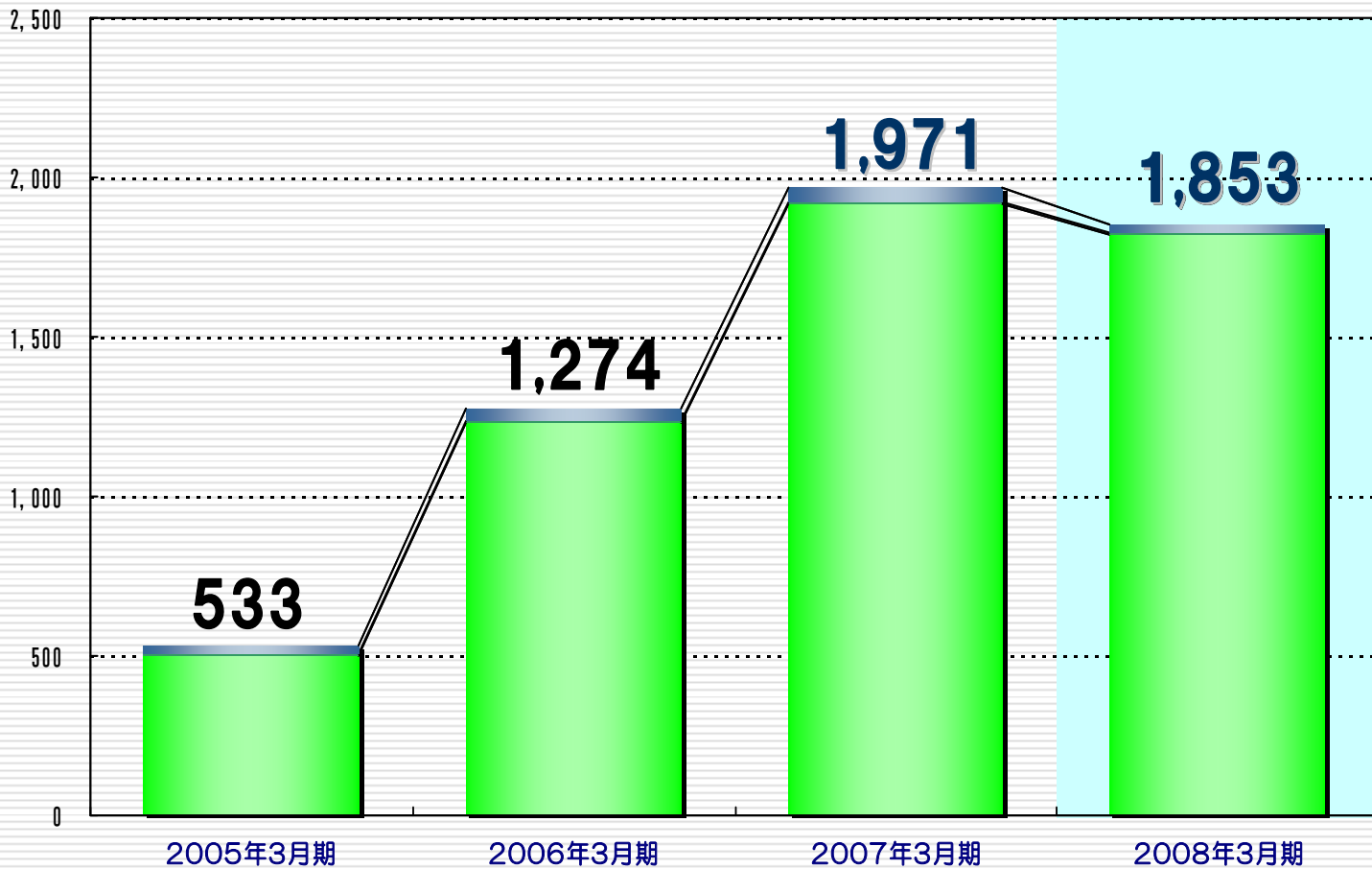




# 参考資料

# 受注残の推移 (対期末比較)

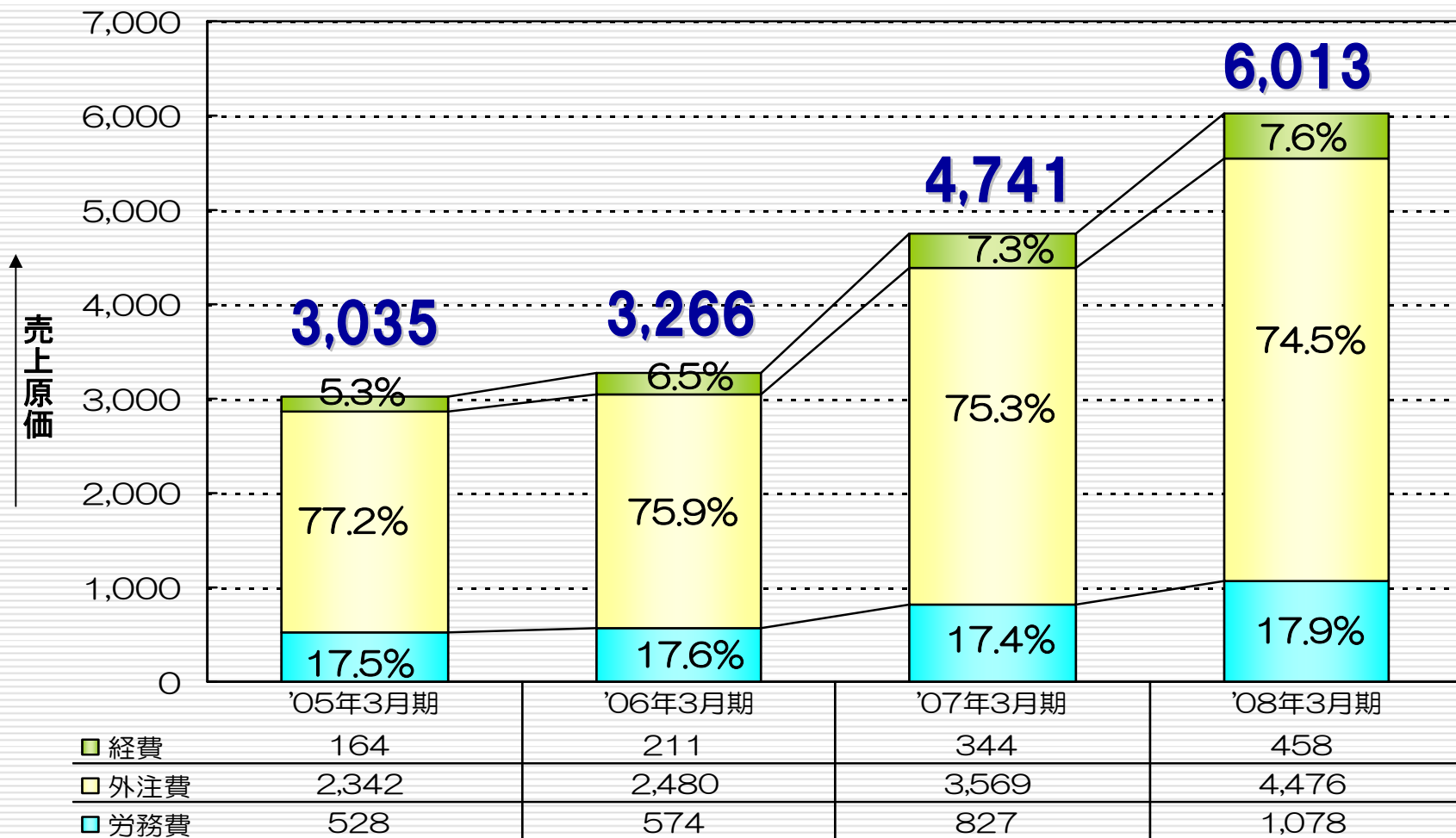
(単位：百万円)



■ 製品検証サービス ■ セキュリティ検証サービス ■ その他サービス

# 売上原価増減分析(期別比)

(単位：百万円)



%は、売上原価構成比

# 株式の状況（所有者別／所有数別）

## 所有者別

区 分	株主数	構成比	所有株数	構成比
金融機関	22	0.75%	1,609	6.32%
証券会社	22	0.76%	332	1.30%
その他法人	43	1.49%	14,707	57.76%
外国法人等	20	0.69%	1,013	3.98%
個人株主	2,775	96.31%	7,802	30.64%
合 計	2,882	100.00%	25,463	100.0%

## 所有数別

株数	人数	保有株数
5株未満	2,538	3,827
10株未満	209	1,262
50株未満	123	2,275
100株未満	4	243
500株未満	4	971
1,000株未満	3	2,385
1,000株以上	1	14,500
合 計	2,882	25,463

2008年3月31日 現在

# 大株主（2008年3月末日現在）

順位	株主名	保有株数	比率
1	株式会社CSKホールディングス	14,500	56.95%
2	日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	995	3.91%
3	ベリサーブ従業員持株会	817	3.21%
4	ビーエヌピー パリバ セキュリティーズサービス ルクセンブルグ ジャ スデック セキュリティーズ	573	2.25%
5	浅井 清孝	400	1.57%
6	日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	334	1.31%
7	バンク オブ ニューヨーク ジーシーエムクライアントアカウントジェイ ピーアールデイアイエスジーエフイー-エイシー	131	0.51%
8	ゴールドマン・サックス・インターナショナル	106	0.42%
9	マネックス証券株式会社自己	74	0.29%
10	青園 雅紘	60	0.24%



私たちの使命は、  
市場に投入されるIT関連製品およびシステムの検証を通じて、  
より快適なIT社会づくりに貢献することです。

<免責事項>

本資料は、当社の2008年3月期決算に関する情報の提供を目的としたものであり、当社の株式の購入や売却を勧誘するものではありません。

本資料の内容には、将来の業績に関する意見や予測等の情報を掲載することがありますが、これらの情報は、資料作成時点の当社の判断に基づいて作成されております。よってその実現・達成を約束するものではなく、今後、予告なしに変更されることがあります。

本資料利用の結果生じたいかなる損害についても、当社は一切責任を負いません。また、本資料のいかなる部分も電子的または、機械的な方法を問わず、無断での複製、転送等を行わないようお願いいたします。